

刊夕 日五月貳拾



定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 廣告料 五圓以上 二行五圓 一行三圓
 日曜 祭日 日休 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

幼児の心理と

その取扱

霜田 静志

「三つ子の魂百まで」と云ふ。西洋の學者は、人の性格は五六歳迄の間に作られる、と言つて居る。して見ると、幼児の時代が人間として最も大切な時期である事は言ふまでもない。此の時代に形作られた性質が一生を支配するといふ事を考へたら、子を持つ親は自分の責任の一層重大なことを考へさせられるであらう。事實此の時代に親達が不用意に子供に對してした事が、後年大きな禍ひを爲すことが、ずいぶんと少ないのである。

今日まで小児の生理衛生については、あらゆる方面から研究せられ、其の養育法も明かにせられて居るが、肝心の心理的方面については一向明らかにならされて居ない。小児がどんな心持で生活して居るか、それは全く大人の窺ひ知るべからざる世界であると考へられて居る。併し乍ら、これが明らかにならなければならないのは、子供の良き取扱ひは出來ないしかも、此の研究のためには、かなりな緻密な観察と

深い洞察とを必要とする。それ故に此の研究を爲し遂げるのは、容易な事ではない。

英國に於いて「小社會集團」を経営し、劃期的な偉業を残して逝いたホームレーン氏は偉大なる天才的教育家であつたが、彼の唯一の遺著なる「親と教師への

ノート 八三九年 米國のグットイヤー天然ゴムを硫黄と化合させ硫化法を發明しゴムの利用確立す

話なる書を読むと、幼児の心理について、驚くべき細かな描寫と深い洞察とが語られて居る。之は誠に子を持つ親達にとつて類稀なる尊き文献であると思ふので、私は次に其の内容の一部を紹介して行つて見よう。以下は彼の思想を私の解釋を加へて記述したものである。

無意識の知

無心なる幼児——など、よく言はれるやうに、幼い子供は何にも知つて居ないといふ風に、考へられて居る。親達は生れたばかりの嬰兒に對しては、物を食べたがる小さな動物位にしか考へて居ない。だがそれは全く根本的に、間違つてゐる。

如何にも嬰兒は、意識的には何も知らない。併し無意識的には必要な事を悉く知つてゐる。彼は生存の爲めには如何にして呼吸すべきかを無意識的に知つてゐる。彼は此の世に生れて來るとすぐ、おぎやあと泣き出すが、これは空氣に向つて叫びを上げる事であり、その爲めに次の瞬間には空氣を吸ひ込みそれによつて肺の活動は促され、さてこそ呼吸は始まるのである。次には乳を吸ふ。之は呼吸よりはもつとむつかしい複雑な行動であるが、嬰兒は之をもちやんと心得て居るのである。

斯様に意識的には何も知らないといふ幼児も無意識的には自分の生存のために必要な總てを知つて居るのである。

斯様に小児の心理は無意識から出發する。而して生後日を重ねるに連れて、次第に感覺知覺が明

- …明日の献立…
- 【朝】味噌汁 大豆
 - 根 小付 納豆
 - 【晝】深川めし 味噌
 - きみ ねぎ
 - 【晚】刺身——まぐろ 甘煮 八ツ頭 ふくめ煮

瞭になり、意識が現はれて來る。それ故に小児の生活は無意識が大部分であつて意識に現はれる部分は極めて僅に過ぎない。

ところが精神分析學が現れて、人間の無意識に對して徹底的な解剖が試みられて以來、之が人間生活を支配する大きな力である事は、今や科學的に立證せらるゝに至つたのである。

銀座、和辻の節は是非會館へ

獨特を奉仕献立

- 紅茶 一〇
- 一品料理 二〇
- ランチ 五〇

御宴會・御集會・御相談次第

平會館

丹野齒科醫院

丹野 淳 夫

平・田町

洋食

毎度有難うございます

エビフライ

ピフテキ

コンパル

TEL.666

◎通學用金釦外套賣出し

中 等 最上	二年……八圓五十錢
三年……九圓	
四年……九圓五十錢	
五年……九圓五十錢	
生 外 套	二年……四圓四十錢
三年……四圓七十錢	
四年……五圓	
五年……五圓五十錢	
小 外 套	一年……四圓四十錢
二年……四圓七十錢	
三年……五圓	
四年……五圓五十錢	

△紺ヘル金釦服一年用三圓四十錢
 △男子子供オーバ種々荷揃

御土産には是非!

仙の干やなぎ

鯉節、鯉鹽辛、いか鹽辛を……

★鯛の子入荷致しました★

平町土橋

鈴藏魚店

電話六六二番

冬呉服大賣出し

この良品でこの安價! 眞にお買徳の冬呉服!

この賣出し大奉仕品豊富

御婚禮衣裳大提供

新柄モス着尺 二圓八十錢

紡績夜具地 八十八錢

ニッポン新柄 九十五錢

本場銘仙 三圓八十錢

新柄秩父夜具 三圓八十錢

赤札特賣品

十二月一日より

十二月七日まで

七五三祝着特賣

友禪縮緬、富士絹友仙 三井

新柄友仙モス、中巾丸帯 吳服店

袴、四ツ身紋付

既に納付した

縣稅も還付

冷害地免租六百町歩に對し 郡下稅務主任會で決定

昨四日平署會議室で開かれた郡下各町村收入役、稅務主任會は平縣稅務出張所から提出された左記議案に就て協議したが問題の免租に就ては平稅務署調査による國稅地租免租八千筆、六百町歩に對しては監督局で免租決定次第既に各町村に納

付された縣稅付加稅は隨時還付することとなつた免租地に對する縣稅免除事務取扱に關する件

縣稅家屋稅の月割賦課縣稅雜種稅自動車稅課稅縣稅檢査施行に關する件課稅外鑑札交付報告に關する件

鮫川橋架替工事

繰延べとなる

地元から猛烈な復活運動

石城郡下の橋梁換替工事施行個所は昨日の縣會に提案されたがこのうち工費三十餘萬圓三年繼續事業として施行する豫定であつた鮫川橋は遂に今回も削除され地元民を少なからず悲觀せしめてゐるが古川同所長はこれが復活運動を開始すべく早くも關係者と協議中であるが近く何らかの具體的方針を決定する筈

に編入運動の爲に同町赤津町長は茨城縣原、平瀨、關本、南中郷、華川各町村民の應援を得て五日出陣、折柄開會中の縣會に對して認可方を陳情した

小局の電話料

値下げ

明春一月から 實施

平局では今回逕信省で決定した電話加入者の僅少な局の電話料を明年一月一日より値下げする事になつたが是の思典に浴するものは從來一局の加入者が二百名以下の處では一年に手額六十圓の電話料を取られて居たのが加入者數が百名以上

勿來町道

縣道編入

認可の猛運動

赤津町長出陣

勿來町から茨城縣編入に通過する町道三千五百米を縣道

從來通り六十圓五十名以上の處は五十四圓四十九名以下は四十八圓と値下されるもので平四倉、湯本、小名濱江名各局を除いた勿來、豊間泉綴等の加入者は多いに助かる譯である

棄權實に六割六分

昨日の小名濱町議補選

無競争で野崎昇太郎氏當選

小名濱町議補選は昨日午前八時から同町小學校選舉場で行つたが投票數五百六十三、棄權千四百三に達する不成績であつたが左記の如く野崎昇太郎氏が無競争で當選した

五六〇野崎昇太郎(政友)
一野崎丈之助 一野崎長次郎 一國井久六

展げゆく常磐炭田

勿來方部試掘願二件許可

本省技手視察 農林省佐々木技手は八日夜來平九日小川江十日鮫川堰の順で水路改修工事状況を視察する

東京市丸ノ内二ノ四日支炭礦汽船株式會社出願に係る勿來、錦方面に跨る礦區四十二萬三千五百坪及び淺野同族會社出願に係る錦、植田、勿來、川部方面に係る礦區七十一萬三千五百坪の石炭試掘願にはいづれも此程許可された

高麗橋を中心として

眞木翁の懷古事談

(29)

留書に依つて見る
當時の戰爭の状況
父の筆子と家塾の話に又々戊辰戰爭の事が出て來たのは、話の逆轉、題目に添はぬと思はれもしやうが、學事と戰爭が事實上錯綜したので其の推移を知る

爲、戰爭の話も知らぬ人々は話の種子にもなるであらふ、白河出陣の留書には父は又左の如く書いた。

留書(前者に會したのもの)
同廿日(明治元年四月)早天より砲聲烈敷、忽城内人數向寺町開門之方江相

草野綴方講習 草野小學校は來る九日福島女子師範學校より高島滿氏を招き綴方の取材及び處理に就いて講習會を開くと

監強姦一、傷害二、詐欺一傷害恐喝一、合計九名であるが内公判中が四件、豫審中が一件、控訴申立中が一件公判済が三件である由

平局通信技

術檢定試験

平郵便通信技術檢定試験は本日午前十時より局樓上で仙臺遞信局佐藤訓之氏が試験官で行はれたが同局の受験者は通信員が二十五名、電話交換手が十名である

長係り關口、香西兩判事陪席、山邊邊護士列席の下に公判開廷する事になつた

△十五丁目三一 佐藤志はさん(六九)
△材木町三四 清氏長男高橋國義さん(一ツ)
平職界紹介所報告
△人を求める方
△店員 十四才から十八才位 尋卒以上 給料面談
△商店雜役 十七才から二十才位 學力程度不問 月十圓位
△小店員 十五、六才 尋卒 仕着小遣
△炊事婦 二十五才から三十五才まで 尋卒 月十圓程度
△職を定める方
△電氣工見習 十九才高卒

裁判所より

既報双葉郡久之濱町宇濱川字九日雇佐藤秀吉(三)に係る強盜渡辱未遂事件は過般豫審終決して陪審才判に廻されたが本日辭退したので近日平支部に於て中島才判

纏候、途中より仙臺藩岡崎健治、馬上に而指揮有之候、諸家人數(泉、棚倉、三春、二本松、中村等)右往左往に瓦解之折柄、動搖も不少、關門に相纏り都合見合せ居候處、何分兵氣落付兼候間、無餘儀半小隊橋向へ相進可申旨申候處、三十人も橋向に相渡り、發砲二發斗、狼狽逃去り候老幼婦女等

忘年會 新年會

料理にお酒に奉仕に御安心のゆきます。様心掛け居りますれば何卒御下命をお願い致します。猶小座敷も七日より落成いたします御利用願升

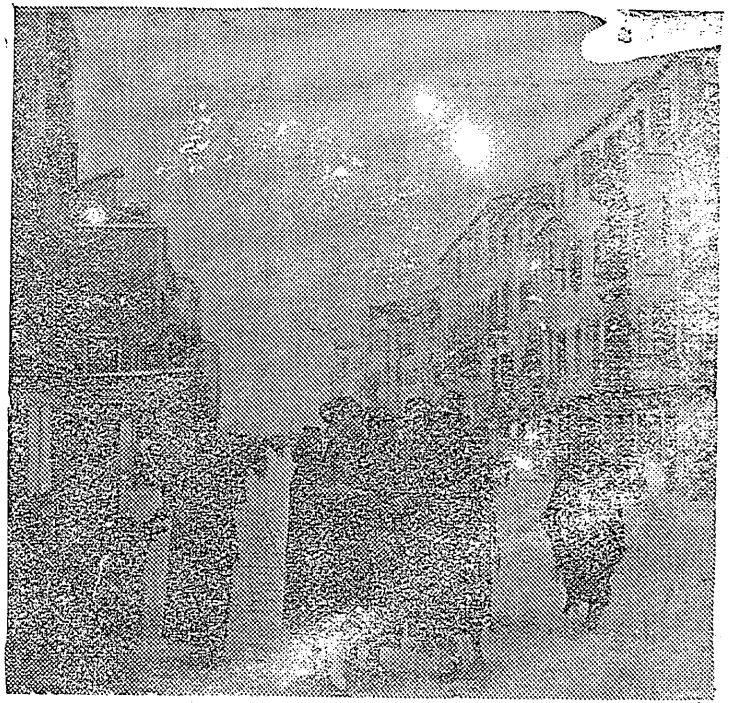
谷口樓

電話一八番
電話一五五番

治馬を返し候間、時刻も宜敷と存直様引揚候、猶關門江相残り候端山官次以下十餘人、發砲罷在候私引揚候折、大砲兼玉藥三棹有之候得共、大砲門石相見、如何可仕と、又々山上江、榊原七郎兵衛太田爲右衛門相伴立戻候處、關門より走り寄大砲引戻の様子見請、安心仕兼々暗に約し候儀御座候間、石川口に

申と引揚申候、此時城中五ヶ所より、火の手天を焦し申候、永野殿關門の方江御附添有之候、赤羽根宿江相纏り、大砲門小野雄治より、私引揚後、長藩人參合せ、又々其指圖に而、一戰有之由承り候、御人數多分社纏り、怪俄人一人も無御座様子相譯り、齊田傳次早にて岩城表江出立仕候、尤大砲隊は、須賀川江引揚由候。

ウエールを纏めて散歩する伊太利婦人



に珠算の...教授を行ふと

全町民の 虎眼検診

施行日割決定

平町では左記日割により全町民のトラホーム検診を施行する

- (星醫師擔當) 十日三丁目 四丁目 十一日新川町 十二日南町 十三日大町 十五日日 十四日堤ノ内 月見町十七日 鎌田町十八日 立町(鈴木醫師擔當) 十日長橋町 十一日研町 十二日五丁目 十三日材木町 十四日久保町 十五日八幡小路 (吉田醫師擔當) 十日紺屋町 十一日一丁目 十二日

明日のラジオ

今朝の天気
北の風晴曇半す

ス 氣象通報 社豫告

明日の部

- 前七、〇〇 基礎獨語講座 (三六)岡本修
- 前七、三〇 聖典講義(五)
- 前七、三〇 母の時間
- 前八、〇〇 東京女高師教授文學博士 下田次郎
- 後八、〇〇 金川節「現世の日蓮」金川文樂外
- 後八、〇〇 家庭講座「冬の漬物」白雲庵主人林春

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 「牛飼村の牛飼長者」木田静也也
- 後六、二五 基礎英語講座 (三四)岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演「日本間を結ぶ」通信連絡の發達
- 日二丁目 十三日銀冶町 十四日舊城跡 十五日北目 胡摩澤(新妻醫師擔當) 十日田町 十一日北白 十三日仲間町 十四日大工町鐵官 十七日南白 十八日才穂小路

二十年間忘れられた 英靈を慰む

植田町で忠魂祭を舉行

滿洲事變戦病死者も合祀

植田町八幡公園にある忠魂碑は二十年前に日清、日露兩戦役戦死者の英靈を慰める爲に建設されたものであるが以後一回の祭典も執行しないのを遺憾とした古川町長、鈴木郷軍分會長らが發起となつて七日午前十時から盛大な慰靈祭を執行することになつた。當日は海洲、上海兩事變戦病死者の忠靈の合祀をも併せ行ふ筈

老婆縊死

中風を悲觀

上小川村字内草農草野わきは四日午後四時頃自宅内梁に兵兒帯をつるして縊死を遂げた原因は貧困と不治の中風病を悲觀して

競賣斷行

平縣稅務出張所管内に於ける滞納額は現在約三千件、六萬圓の巨額に達してゐる

珠算研究教授

平第一小學校武多專科訓導は明日六日高等科第二學年の生徒

歳末の準備で 貯金拂出しが増加

平局の去月中窓口統計

平局で去月中に取扱つた爲替の受入高は三萬三千七百八圓十三錢で前月より七百五十二圓六十七錢多く拂出は五萬九千九百八圓七十二錢で是は前月より二千三百三圓七十八錢を減じ貯金受入が十萬三千三百九十一圓卅六錢、前月より三千四百五十五圓を増し拂出では十一萬五千七十五圓二十三錢で前月より一萬九千五百二十五圓八十一錢を減じて居り振替貯金四萬百二十三圓十七錢は前月より七千二百九圓四十二錢を減じ拂出二萬三千四百三十三圓一錢は

藤原義江は唄ふ

今夜平館にひらかれる 最高水準のヴォーカル藝術 前人氣頗る盛ん

凶作地救濟慈善音樂會のため警城會津人會が招聘した世界的テナー藤原義江氏は今日午後一時五十二分平騾着列車で來平した驛頭にはこの巨人の風貌に接せんと多數ファンが押しかける中を直ちに自動車で警城高等女學校の獨唱會に臨み全校職員生徒をして絶讚の

寒空に泣く 兒童へ温い贈物

平第三校の貧困兒救濟

過般平第三小學校で催された濱三郡小學校長會の席上調査した同校の貧困兒童には給食を必要とする者は殆んど無かつたが不況の爲め相當粗食して居る兒童が四

- 隆
- 後六、〇〇 子供の時間
- お話俳句を作るには「一友納友次
- 後六、二五 英語講座(六の五)岡部次郎
- 後七、三〇 講演「癌腫の話」醫學博士 稻田龍吉
- 後八、〇〇 地唄 富崎美喜子外
- 後八、二〇 舞臺劇 東京歌舞伎座より中繼 市川左團次一座
- ソの子守唄「歌劇」ラ。ト
- ラビアタ」より及び外國民謡から「荒城の月」の愛踊歌謡曲並に民謡等ことごとく同氏獨特の美聲で満堂のフ
- ヲンを陶醉せしめ日本最高の水準にあるヴォーカル藝術を地方民に深く刻み付けるものとして期待されてゐる
- 第一部 踏
- 一、舞
- 二、セレナータ
- 三、野ばら
- 四、ジョンストランの子守唄
- 第二部
- 一、「椿姫」より
- 二、ウエルデルの悲しみ
- 第三部
- 一、カルメン
- 二、ヴォルガの舟唄
- 三、サンタルチャ
- 第四部
- 一、十六夜の月
- 二、他國の月
- 三、荒城の月
- 第五部
- 一、中國地方の子守唄
- 二、待ぼうけ
- 三、おらが牧場
- 四、出船
- 五、鐘をおさめて



明治太平記

(禁無断録)

(作) 寺島 征史

(畫) 野口 紅涯

第四回

ザンギリ頭 (四)

「おや、何かお忘れものでも……」

「いや、親方」

意味深長な眼をして、じ

と、そこへ、どや／＼とついでに現れたのが肩で風切る巡邏三人、芳丸を、物々しく取圍んでしまった。

「こりや、平民芳三郎」

六等出仕は、平民と、こ

とさらにいつて、五つボタ

ンの紅毛服の腰へ兩手をあ

て、見得を切つた。

「へえ」

「たゞ今の浪人者をいづれ

へ隠しをつたか」

「は」

「總髪大たぶさの、あれア

璋義隊の大物ぢや」

「は、はい、いづれへ参りま

したか一向に存じませんが

は」

「だまらつしやい、さいぞ

ん聞及ぶところ、そちとあ

の大たぶさとは、相當に親

しい間柄のやうぢや。彼の

潜伏してゐるところを聞き

忘れるはずがない、まつす

ぐに申立てよ」

六等出仕は、いよいよ官

員風を吹かして、芳丸をお

聲に應じて、三人の巡邏は、いきなり芳丸の兩手兩肩を抑へた。

「歩けい——」

三日目に、れいの黒木綿

素裕が、約束どうりやつて

きた。

「ゆるせ」

のれんを潜つて店を覗い

たが居るはずのいが栗頭が

姿を見せない。

「はて、芳三郎、芳丸は居

らぬか、こりや」

すると、奥の方からぬつ

と顔を出したのは店のある

じ芳丸ではなく、三尺の檜

とわらつてみせた。

「おのれ、何が可笑しいか

……」

巡邏は、カツとなつて、

三尺棒を突出した。

「ハ、ハ、ハ……さう怒る

な、おぬし、いつごろより

弟子入りをしたか」

「なに、本官は髮床の弟

子ではないぞ、貴公を押へ

る爲にこれに出張つてをつ

たのぢや」

「ほう、して？」

「本官にしたがつて、糺問

所へまゐれ」

ぐいと、大志賀の二の腕

につかみかゝつた。それを

かるく振拂つた。

の棒を小脇に抱へた虎將巡

遙だ。

「おう」

大志賀の前に立はだかつ

て、大きく構へた。それが

いさゝか滑稽にみえたので

への字に結んだ大きな口を

ひらいて

「ハハ、……」



自動車の御用ナ
ラ何デモ御仰セ
付願ヒマス。

和昭タクシー

電話 三四三〇番

- 一、充實セルタクシー部
- 一、高級大型団体遊覽車
- 一、豊門、江名、中ノ作方面
- 一、小名濱直通
- 一、靈峰關御井嶽
- 一、貨物一般運送

内 科	小 兒 科	婦 産 科	外 科	皮膚泌尿器科	花柳病科	X光線科	衛生試験所	藥 局
院長 石山謙二	部長 平賀一忠	部長 五十嵐雄二	部長 坂本眞一	部長 前澤正	部長 石山謙	部長 石山謙	部長 石山謙	部長 石山謙
副院長 石山謙	部長 平賀一忠	部長 五十嵐雄二	部長 坂本眞一	部長 前澤正	部長 石山謙	部長 石山謙	部長 石山謙	部長 石山謙
部長 石山謙	部長 平賀一忠	部長 五十嵐雄二	部長 坂本眞一	部長 前澤正	部長 石山謙	部長 石山謙	部長 石山謙	部長 石山謙

内科 小兒科 花柳病科

藤沼醫院

平野屋町 電話五〇七番

大至屋商店

磐城セメント會社特約店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

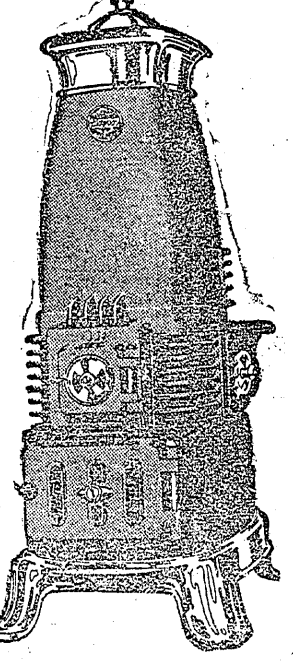
□確實敏捷は人の生命なり

外科 内臓外科

病室完備

博醫學士 諸橋鐵彌

◎新川町二七 (電四六四)



完全燃焼の爲め
煙筒掃除の要無き
日本一の……

フクロクストーブ

御申越次第カタログ持参御伺ひ致します

發賣元 阿部石炭商店

電話 三七番